大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

プライド・オブ・アメリカ　船上の楽しみ方

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀江, 珠喜 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15377

1

プライド・オブ・アメリカ
船上の楽しみ方

大阪府立大学　教授　堀江 珠喜

ハワイには3回（1971 年、1988 年、2000 年）訪れたものの、特に好きなわけでもなく、行きたいわけでもなかったのが、成り行きで 2014 年秋にオアフ島のカハラで 3 泊することになった。それならその前に 4 島周遊一週間クルーズ船プライド・オヴ・アメリカの船首部スイートで、10000 号室が予約できたら乗船してもよいと考えた。知人が以前に利用して気に入り、強く勧めてくれたキャビンである。デッキ 10 の船首部を独占するこのキャビンは人気が高くて予約が困難と聞いていたが、なぜか取れた。つまり、ハワイにもこの船にもたいして期待せずに乗船したのだが、自分でも驚くほど楽しめた。ハワイが好きな方なら、もっと愉快な一週間を過ごせただろう。そこで、この船の長所・短所について報告したい。

2

3

1. 冷房が強過ぎる

大部分の日本人にとって、この船の冷房は強すぎるのではあるまいか。キャビンのエアコン調節パネルでは OFF の設定がない。また強制換気 3 カ所のうち温度調節可能なのは一カ所のみだった。仕方なく、バルコニーの戸を少し開けたままにして過ごした。我々の部屋は広いし、なによりこのように外気を入れられるからまだましだが、それができないキャビンなら冷えきっているのだろう。事実、公室ではカシミヤのカーディガンが手放せなかった。持って行った夏物の衣料も、船内では寒過ぎて着られなかったりする。さすがは米国船籍だけあって、皮下脂肪の多いアメリカ人向けの船である。夫は風邪を引いてしまった。

2. ゆったり感がある。

体格の良い米国人が遠慮なく行き交えるほど、廊下、踊り場、オープンデッキなどが、とにかく広い。ビスタクラスのクイーン・エリザベスやクイーン・ヴィクトリアとは大違いだし、クイーン・メリー 2 で、客室としてはクイーンズグリル・スイートだけがならぶデッキ 9 の廊下よりも、広くて贅沢感がある。またパブリックスペースでの通路などの配置もシンプルで、狭いくせに段差と曲線で小細工をして鬱陶しいサファイア・プリンセスなどともかなり異なる。ともすれば閉塞感のある船上で、アメリカらしいゆったり感は嬉しい。

1. 広々としたプロムナードデッキ 2. 10000 号室の船首正面にある広いバルコニー 3. ハワイ島ヒロにてヘリコプターから撮影したプライド・オブ・アメリカ
4. ホテル部門の廊下。広い部分は幅約 3 m他は1.5m

4

1.10000 号室の居間。中央扉の奥に寝室とバスルームがある。重厚感があり、かつ明るい色調。2.10000 号室のクローゼットと化粧台。この手前右にベッドがあり、この右奥に洗面、バスタブ、シャワーブース、トイレがある。使い勝手がよく、緑色のタイルで見事な高級感。3.10000 号室バルコニーからの眺望は良いが、風当たりが強い。写真下の白い部分が本船の上部構造物。4.10000 号室のバルコニーにあるジャグジー。

3. 色調が良い

QM2 は私が最も好きな船だが、当分、乗る気にならない。理由は、ドック入りの際、ベージュだったキャビンのカーペットが、濃い茶色で落ち着かない模様入りのものに替えられたためだ。その点、プライド・オヴ・アメリカの内装カラリングは見事で、高級感を出すことに成功している。

4. 星空の下のジャグジーは寒い

前述の知人は夜、10000 号室のバルコニーにあるジャグジーに浸かりながら星空を眺めて感動したそうだが、我々の場合 10 月末だったせいか、停泊中の昼間でも風向きによっては、そんなジャグジーに入るのは寒過ぎた。もちろん船首部のバルコニーにはより強く風が当たることは、タヒチクルーズのポール・ゴーギャン号で経験済みで、覚悟はしていたが。それでもホノルル出港時には、シャンパンを飲みながらバルコニーのジャグジーに入り、その後、浴室のバスタブの湯で冷えた身体を暖めた。オーナーズ・スイート以上のカテゴリーには、バルコニーにジャグジーが備えられているが、この設備に惑わされるべきではないように思う。

5. デイリー・プログラムが読みやすい

最近のキュナードの船内新聞が、とにかくレイアウトに凝り過ぎて分かりにくいのに比べ、この船の「フリースタイル・デイリー」はシンプルで、読みやすい。また携帯しやすいよう左側のイベント時刻表を切り取って折り曲げられるように配慮されている。ただし日本人客に届く日本語版では、イベント時間が違っていたり、英語版には挟んである別紙の分が省かれているので、そのぶん情報量が少ない。英語が理解できなくても大丈夫だが、その分、楽しむ機会も限られるかもしれない。

6. 食事に期待するなかれ

追加料金が発生するものも含め、レストランがいろいろあって楽しい。ただし、とても美味しいというものは少なく、口に合うかどうかはわからない。

24 時間営業のキャデラックダイナーは、その名のように赤いキャデラック席が楽しいので、空いた時間帯に行き、記念撮影をすればいい。食べるならサラダとかサンドイッチなど、できるだけ素材の味を尊重したものが無難である。

以下はディナーに関してだが、スカ

1. メインダイニングのスカイライン 2. メインダイニングのリバティ 3. キャデラックダイナーにて 4. 船内一番人気の鉄板焼き 5. ジェファーソンズ・ビストロの仔羊料理 6. 無事に届いたルームサービス。手前が BLT。ガラス天板のテーブルには食事時、クロスが欲しかった

左から、予約状況のわかる電光パネル。結婚 33 周年祝のケーキとお祝いサービスカード

イラインとリバティのメニューは同じ。日替わりのものと定番の料理から選べる。スカイラインのほうが、よりカジュアルな服装で入れるが、こちらのほうが天井が高く、ニューヨークの高層ビル群をイメージした珍しい内装だ。

アロハカフェはブッフェで騒々しいが、広くてゆったり感はあるし、食後のテーブルに残された食器などは、たちまち回収される。西洋料理ばかりではなくアジアン・テイストも揃っている。ディナータイムが過ぎても 11 時半まで深夜のスナックが用意されている（が、残念ながら、私は遅いランチ一度で懲りた）。

追加料金＄20のフランス料理、ジェファーソンズ・ビストロでは、たまたま注文した料理が私の舌に合っただけかもしれないが、美味しかった。別稿で述べたが、仔羊の骨付きグリルは、ポール・ボキューズのリヨン本店の仔羊料理に優ると思った。（ポール・ボキューズ本店も 2004 年に訪れたときには、この大シェフ本人がまだ店にいて美味しかったが、2014 年春に同じ料理を注文し、味が落ちたと感じていたのだ。）

イーストミーツウェストには追加料金＄ 15 のアジア系料理、しゃぶしゃぶ、一品ごとに値段の付いた寿司、そして最も人気が高い追加料金＄ 25 の鉄板焼きがある。鉄板焼きの予約が取りにくいのは、５時半、７時半、９時半と開始時間が決まっていて、独りの料理人がカウンター席８名の相手を同時にするためだ。カウンターは４カ所しかないので、一回で 32 名しか入れない。コックはフィリピン人。ジョークで我々を笑わしながら、米国で好まれる鉄板焼きのパフォーマンスを披露する。材料や肉の焼き加減については各自の好みで注文できるが、全員の分がすべて甘辛い照り焼きソースで味付けられてしまう。たまたま隣席の米人客と話が盛り上がって楽しかったが、味としては、再訪したい店ではない。　追加料金＄ 30 のステーキハウス、キャグニーズでディナーは食べなかった。リバティやスカイラインでもステーキは食べられるし、我々スイートキャビン客は追加料金なしで朝や昼にここでステーキが食べられるからだ。だが＄３０も取るのだから、きっと、夜のステーキは上質で美味しいのだろう。スイートルームに泊まっていなければ、絶対に一度はここでディナーを楽しんだと思う。

あとは追加料金＄ 15 のイタリア料理のラ・クチーナと＄ 20 のブラジリアン BBQ のモデルノだが、どちらも人気薄だし、ハワイ船上でわざわざ食べたい料理とも思えなかったので行かなかった。なお予約状況は、船内に数カ所設置されたパネルで、一目瞭然であるのが便利だ。

追加料金なしで最も安心して食べられるのは、ルームサービスの BLT だが、１時間待たされるかもしれない。

ちなみに、もしカップル参加なら、新婚や結婚記念日と言って CONGRATULATIONS! のカードをゲストサービスデスクなどでもらい、レストラン注文時に渡せば、食事が終わる頃に美しいケーキが用意され、キャビンに持ち帰ることもできる。ただし、お世辞にも美味ではない。

1. ホワイト・ホット・ダンスパーティ
2. ハロウィンパーティ
3.4. 仮装する米人客
5. ハロウィンパーティ会場
6. ハロウィンで着たTシャツ
7. 寿司のデモンストレーション
8. レイ作りとフラダンスの講習会

7. 飲み物を持ち歩ける

我々はキュナード以外、あまり知らないので、ひょっとしたらこれがふつうなのかもしれないが、飲み物の入ったグラスをどこにでも持ち歩けることに驚いた。レストランで飲み残したら、それを持って、シャンパンバーに行って座り、演奏される音楽を楽しんでもいいのだ。その反対に、バーでの飲み残しを持ってレストランに行くことも可能だ。これに気付いてクルーズの後半は、スイートルームの特典として届けられたモンダビを部屋にあるワイングラスに注ぎ、レストランやイベントルームに持ち込んだ。これができるのが、カジュアルな船の良さなのだと実感する。

8. 白い衣装を用意しよう

この船でテーマ・ナイトがあるとしても、せいぜい「ハワイアン」だと思っていたが、乗船してクルーズ中の主なイベント予定表（たった一枚の紙だったが重宝した）を見ると、5日めの午後10時から「ホワイト・ホット・ダンスパーティ」がある。社交ダンスではなくディスコだが、この船の定番イベントとして知られているらしく、この夜のために持って来たとしか思えない衣装を纏う米人客たちが詰めかけた。

日本の代理店も、このような定番イベントについては情報提供をして欲しい。一応は我々も船のホームページをチェックしたし、ウェブなどで数名の乗船体験記も読んだが、このイベントについては触れられていなかった。

男性は白いワイシャツを着れば良いので簡単だが、女性はそうはゆかない。まったくの偶然に、長年着ることのなかった白いワンピースドレスをなんとなくスーツケースに放り込んで持って来たおかげで、私は不愉快な気持ちにならずに済んだが、でなければ怒りまくっていただろう。日本のクルーズ船代理店で働く方々は、クルーズを楽しみたい客の気持ちをもっと理解していただきたいものだ。

ちなみにこのクルーズの7日めがハロウィンだったので、夜10時からパーティが開かれた。日本語の船内新聞では「是非、お好きなハロウィン衣装で、ご参加下さい!」と能天気な一文が記されているが、そんな衣装をどこで入手しろというのだ。寄港地で探しまわる気にもならない。（結局、かつて某私大学長からアメリカ土産でもらったものの悪趣味で一度も袖を通していないビキニ姿模様のロングTシャツを着たところ、意外に好評だった。）だがさすがに米人客のなかには、凝りに凝った衣装を用意する者もいたし、船内のデッキ5では、中央のゲストサービスデスクに、ハロウィンらしい飾り付けがされた。子供達のグループが船のスタッフに連れられて、菓子を貰い歩いていた。

もし10月31日を船上で過ごすなら、ハロウィンらしいファッションを考えるのも楽しいだろう。2014年10月23日の日経新聞によると、この年のハロウィンの市場規模を前年比9％増の1,100億円と日本記念日協会が見込み、バレンタインデーを上回るとか。つまり日本でも充分にハロウィングッズが入手できるのである。

またクルーズ3日めがフォーマルナイトになっている。キュナードのようには強制力はない。だがこの船で最も人気の写真スポットである白い中央階

段で、この夜は希望者のみ船長との記念写真をカメラマンに撮ってもらえるので、そのためには女性なら素敵な衣装を着たいだろう。

上・ゲストサービスデスクでは骸骨が PC 作業中
下・ハロウィンのキャンディ

9. エクスカーションに参加しなくても船内で常時、何かイベントがある

キュナードなら、寄港日の昼間に船内イベントはないに等しい。だが、この船では航海日がなくて、2日間停泊することもあるので、クルーズを通して毎日ほぼ同じだけイベントが用意される。またポリネシアはどこへ行っても同じとばかりに船内に残る、あるいは1時間ほど散歩するだけの客もいるためか、イベントが常時催されているのだ。フラダンス講習会やレイの作り方教室などハワイらしいものもあるし、料理のデモンストレーションもあり、終わると試食させてくれる。寿司の日もあった。

10. とにかく陽気なアメリカ人とハワイののんびりした雰囲気で、なんとなく愉快な気持ちになる

これが英国船や日本船との決定的な違いかもしれない。すれ違うたびに「ハイ!」や「アロハ!」が飛び交う。アメリカ本土からわざわざハワイまでやって来る客層は、良いと見受けられた。なにしろ東海岸からより、日本からのほうが近いのがハワイなのだ。多くの米人客にとっては、カリブ海クルーズのほうが安いレジャーであろうし、ヨーロッパへのほうがアクセスが良かったりするのだ。

このようにプライド・オヴ・アメリカは、ハワイ好きな多くの日本人には、おそらくカリブ海クルーズ船よりも楽しめると思われる。パック旅行では定点定期一週間クルーズ後にワイキキのホテル1泊をつけて売り出しているようである。実は我々もそのパック旅行を利用し、復路のエアを3日後に変更してもらった。つまり下船後、オアフで4泊（ワイキキ1泊、カハラ3泊）したので、クルーズでの疲れもすっかりとれ、陸地でのハワイも楽しんで帰れた。だが従来のパック旅行プラン通りに帰国した方の話では、数日間疲労が溜まったままで大変だったらしい。パック商品として売るときでも、下船後の延泊が可能なように企画すれば、より魅力的な旅行になるだろう。